

北海道教育大学函館校 池ノ上研究室  
利尻島ゼミ合宿 2016 報告書



北海道教育大学函館校  
池ノ上研究室

平成 29 年 1 月



平成 28 年度  
離島交流事業  
「池ノ上研究室ゼミ合宿  
@利尻島」  
活動報告書

---

北海道教育大学函館校  
池ノ上研究室



## はじめに

我がゼミでは、毎年夏の長期休業時にフィールドワークを合宿で行うこととしている。ゼミ所属の学生は、普段は個人単位で学習や研究を進めている。この夏合宿は、年間を通じて唯一のゼミ生全員がチームとして活動をする機会である。そのため、どの地域でどのような趣旨や内容で過ごすかについては、とても重要な懸案事項である。昨年度は岐阜県にて、白川郷、飛騨古川、郡上八幡などをフィールドとした。今年度は本学に国際地域学科が開設されて2年目となり、我がゼミにも2期生が加わり本格的にゼミとしての体裁が整いつつある。

そこで今年度はどうしようかと検討を始めていたところ、利尻富士町産業振興課の島谷課長より、離島交流事業という学生の合宿誘致事業があるがどうかとお声がけ頂いた。島谷一昭課長には、かねてより利尻遺産の明確化やDMO形成事業でお世話になっていた。そのお人柄や島への想いに感銘を受けており、ぜひともお願いしたいということになったのである。

実施に向けた企画、準備の段階から、実施、そして報告会まで、町役場や地域おこし協力隊の皆さんには大変お世話になった。お陰で学生ら共々、大変思い出深い経験ができた。とくに、島民の皆さんへの聞き書きの段取り、現地視察や歴史文化に関するレクチャーなど、さらに調査ばかりでは大変だろうと、鮭釣りや魚さばき教室、および試食会などの島の暮らしを楽しく体験できるよう準備を頂いた。いくら感謝をしてもし尽くせないほどである。内容の詳細については、本編をご参照頂きたい。また、フィールドワークの成果についても、微力ながらも利尻島の未来のための一助となればこの上ない喜びである。さらに言うと、学生らにとっても、人生の1ページを刻む経験となり、島のみなさんとの一生の繋がり始まりとなってくれることを望む。

最後にくり返しになるが、利尻富士町役場をはじめとした合宿誘致事業の関係者の皆さま、インタビュー等にお応え頂いた本泊地区の皆さん、学芸員の西谷榮治氏と山谷文人氏、その他多くの方々にお世話になった。本当にありがとうございました。深謝申し上げます。

北海道教育大学国際地域学科  
准教授 池ノ上 真一



# 目次

## 第1章 ゼミ合宿の概要

### 1-1 ゼミ合宿の目的

### 1-2 ゼミ合宿の参加者

## 第2章 ゼミ合宿の行程

## 第3章 活動内容

## 第4章 振り返り・感想

### 4-1 ゼミ合宿の振り返り

### 4-2 良かったこと、悪かったこと

### 4-3 ゼミ生の感想

## 添付資料



# 第1章

## ゼミ合宿の概要



## 1. ゼミ合宿の概要

### 1-1 ゼミ合宿の目的

北海道教育大学函館校池ノ上研究室は、利尻富士町が行う平成28年度離島交流事業を活用させて頂き、利尻島でゼミ合宿を実施する運びとなった。当該事業とは、廃校となった旧本泊小学校を拠点とし、合宿誘致のためのモニターツアーであり、複数の大学を誘致し、観光等における様々な試験的取り組みを行うものであった。他方、産業（漁業）遺産を「利尻遺産」<sup>1</sup>として定義し、観光資源として利活用するための観光を基軸とした価値創造プロジェクトが行われていた。

我々のゼミ合宿としては、この価値創造プロジェクトに資することを旨とし、本泊地区を中心に「聞き書き」を行い、本泊地区における地域資源を明らかにするため、フェノロジーカレンダーの作成とお宝マップを作成した。さらに、ゼミ合宿の最終目標としては、フェノロジーカレンダーやお宝マップを活用した滞在プログラムを提案することとした。価値創造プロジェクトとは、観光の視点から、「利尻遺産」をいかに資源化し、持続的に使い続けることが出来るのかについて検討を行い、利活用によりその価値を高め、子や孫、次の世代に有効な遺産として遺すためのプロジェクトである。

※1「利尻遺産」とは、利尻島が成立してきた中で生み出され、価値を高めてきたモノやコトであり、これからも利尻島内で暮らし続けるための資源として継承したい遺産である。

## 1-2 ゼミ合宿の参加者

### 【北海道教育大学】

- ・青野 朋晃 (人間地域科学課程 地域創生専攻地域計画分野 4年)
- ・古村 真衣 (人間地域科学課程 地域創生専攻地域文化分野 4年)
- ・星山 大稀 (国際地域学科 地域政策グループ 3年)
- ・大久保 美侑 (同上 3年)
- ・白岡 健志 (同上 3年)
- ・古舘 葵 (同上 3年)
- ・山田 創祐 (同上 2年)
- ・阿部 晃佑 (同上 2年)
- ・熊野 心平 (同上 2年)
- ・菊池 和佳奈 (同上 2年)
- ・東海林 弘人 (同上 2年)
- ・池ノ上 真一 (引率：同大学 准教授)



## 第2章

### ゼミ合宿の行程



## 2. ゼミ合宿の行程

合宿日程は、移動日を含め9月11日(日)から19日(月)までの9日間行った。合宿の前半は島内でのアクティビティを体験し、後半は聞き書き調査を中心に研究を進めた。詳しくは、合宿中に使用したスケジュール表を添付したので以下の表を参照してほしい。

表 北海道教育大学函館校 池ノ上研究室 ゼミ合宿スケジュール表

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月11日(日)	ツアー参加者 全12名												函館～札幌 はこだて号 23:25函館発				
9月12日(月)	はこだて号 5:55札幌着	札幌～稚内 はまなす号 7:40札幌発 13:30稚内着					稚内温泉 みなの湯 ※池ノ上先生 HAC14:15利尻空港着			稚内～富田 ハートランドフェリー 16:40稚内発 18:20富田着	貸出し後 本浪小学校へ	ツアー参加者・町職員・島の人 懇談会					
9月13日(火)	A班(4名) B班(4名) C班(3名)	9:00-12:00 本泊周辺についてのレクチャー (西谷さん、山谷さん)			昼食	14:00-17:00 お料理教室 食生活改善協議会 交流会			後片付け	入浴(利尻富士温泉)	計画づくり						
9月14日(水)	体育会系班(4名) サウスポークラス班(4名) 体験プログラム班(3名)	6:00-12:00 鮭釣り～鮭とほ作り工屋(さばいて塩水につける)			12:00-14:00 鮭ちゃんちゃん焼き 昼食作り		14:00-17:00 空山口～ポン山～利尻富士温泉		17:00-18:00入浴(利尻富士温泉)		1日の情報共有と計画づくり						
9月15日(木)	A班(4名) B班(4名) C班(3名)	利尻島郷土資料館 山谷解説			11:40-13:30 フェリーターミナル前で昼食 徒歩でりつぶ館へ移動		13:30-14:30 りつぶ館 山谷解説	14:30-17:00 聞き書き 14:30-17:00 聞き書き 14:30-17:00 船内体験 島のなまこ		17:00-18:00入浴(利尻富士温泉)	まとめ作業と明日以降の日程調整						
9月16日(金)	A班(4名) B班(4名) C班(3名)	起床&食事	西谷さん	西谷さん	西谷さん	佐藤薫さん	西谷さん	14:30-16:00 味噌さん 嶋中さん・鈴木さん		16:00-17:00入浴(利尻富士温泉)	18:30-20:30 りぶらde学が利尻学@りぶら	夕食	まとめ作業 22:00～?				
9月17日(土)	A班(4名) B班(4名) C班(3名)	起床&食事	秋元さん・島谷さん	なし	正田さん	秋元さん・島谷さん	なし	神成さん		17:00-18:00入浴(利尻富士温泉)	まとめ作業20:00～						
9月18日(日)	A班(4名) B班(4名) C班(3名)	起床&食事	吉田さん・今村さん	吉田さん	今村さん	吉田さん	今村さん	吉田さん	今村さん	吉田さん	今村さん	吉田さん	今村さん	町職員と交流会 BBQ(調整中)			
9月19日(月)	ツアー参加者 全12名				最終発表会		昼食	自由行動		HAC 15:35利尻空港発 16:30丘珠空港着 HAC 17:25丘珠空港発 18:05函館空港着							



## 第3章

### 活動内容



### 3. 活動内容

#### 9月11日(日) (1日目)

利尻島へ向け、函館を出発。ゼミ生6人(青野、古村、白岡、古舘、菊池、阿部) 23:00 函館駅前集合、はこだて号 23:25 発 札幌行



↑写真 函館駅

#### 9月12日(月) (2日目)

札幌着 05:30 着。札幌駅バスターミナルにて、大久保、星山、熊野、山田と合流。

はまなす号 07:40 発 稚内行



↑写真 札幌駅バスターミナル

13:30 稚内着

稚内にて、東海林と合流。「うろこ亭」で昼食をとる。ハートランドフェリー16:40 発 鴛泊行



↑写真 フェリー内にて

船内にて普段は立ち入ることが出来ない操舵室やデッキなどを観察。

18:20 鴛泊着。

現地で池ノ上と合流後、利尻富士温泉にて入浴。食材の購入後、今回のゼミの拠点である旧本泊小学校へ移動し、ゼミ合宿でお世話になる町職

員の方々との交流会に参加。夕食をとりつつ顔合わせを行い、また今後のスケジュール確認などの打ち合わせを行った。



↑写真 顔合わせの様子



↑写真 打ち合わせの様子

## 9月13日（火）（3日目）

旧本泊小学校にて、西谷さん、山谷さんによる本泊周辺のレクチャーを受ける。座学で本泊周辺地域について学び、その後フィールドワークを行う。



↑写真 座学の様子



↑写真 フィールドワークの様子

午後、総合保健福祉センターへ移動し、食生活改善協議会の皆さんによる、お料理教室に参加。ゼミ生1人ずつが魚を三枚におろし、つみれを作った。今回のメニューは、2種のおにぎり、ホッケのつみれ汁、ホッケのフライであった。その後、協議会の皆さんと一緒に、食事会を開催した。



↑写真 お料理教室



↑写真 食事会の様子

夜、全体ミーティングにて、各グループの聞き書き調査での質問事項について検討した。



↑写真 全体ミーティングの様子

## 9月14日(水) (4日目)

〔A班〕青野、白岡、山田、阿部

早朝、柏谷さんの指導のもとサケ釣り体験を行う。サケの他、ソイやガヤも釣れた。釣れた魚、いただいた魚を捌き、昼食としてサケのちゃんちゃん焼きやフライ、お刺身で食べた。



↑写真 サケを捌く様子



↑写真 昼食

午後、熊谷さんとポン山ハイキングを行う。山で生育した、様々な種類の植物を解説してもらいながら標高444mのポン山を登った。熊谷さんは当時、1年間に100回ポン山を登る「100ポンチャレンジ」を行っていたが、今回はその86回目に同行させて

いただいた。山頂では、鴛泊、本泊地区を一望することができ、タイミングがよく利尻空港から離陸する飛行機を眺めることができた。帰りに、名水百選に指定されている「甘露泉水」に立ち寄り、自然の湧水を味わった。



↑写真 ポン山山頂にて

〔B班〕古村、星山、熊野、菊池

2班合同で、島内一周のサイクリングを行った。石井さん先導のもと、ガイドを受けながら楽しく島内を観光した。その後磯舟体験を行い、オールを使って船を漕いだり、海の中を観察したりした。



↑写真 サイクリング風景



↑写真 車に回収され、磯船体験へ向かう一同

〔C班〕古舘、大久保、東海林

二班合同で、島内一周のサイクリングと観光地巡りを行ったが、時間が足りず島の5分の4周で断念。ロードバイクに乗ることが初めての人がほとんどであった。平坦な道のりではなく、アップダウンが激しく厳しいものであった。車での移動後、磯船体験を行った。



↑写真 磯船体験

夜、全体ミーティングにて、各グループの今日のアクティビティ内容について発表。それぞれの活動を共有した。



↑写真 全体ミーティングの様子

## 9月15日(木) (5日目)

早朝、A班は鮭とぼづくりを行う。昨日、捌いた鮭を外に干した。



↑写真 鮭とぼ作り

午前、利尻島郷土資料館を山谷さんの解説を受けながら見学。利尻の文化や昔の暮らしについて学ぶ。



↑写真 利尻郷土資料館

その後、鬼脇地区を散策。長生堂寺嶋菓子舗の利尻プリンを購入したり、北勝佐々木水産のホタテを味わったりした。お昼は各自、ターミナル周辺で食べる。午後から、りっぷ館へ移動し再び山谷さんの解説を受けながら施設を見学。利尻の歴史について学ぶ。展示の資料を特別に触

らせてもらい、土器の軽さや破片をつなぎ合わせて復元させる修復行程に驚いた。

夜、資料館で学んだ資料の整理を行った。また、最終発表の各グループのテーマを決めた。



↑写真 全体ミーティングの様子

## 9月16日(金) (6日目)

この日から、フェノロジーカレンダーの作成を行うために、聞き書き調査を開始した。「聞き書き」とは、一対一のインタビュー形式を通じて、「話し手」の人生や価値観を引きだし、記録する作業のことである。その人の経験や知恵、これまでに培ってきた価値観や考え方とともに、その人の人柄が浮かんでくる。<sup>2</sup>

今回は、利尻富士町本泊地区に住む各世代の方々への聞き書き調査を通じて、本泊地区に暮らす人々がどのように自然と付き合いながら暮らしてきたのかについて、その言葉に耳を傾け、その思いを聞き、書き留める作業を行った。

A班は、「利尻の食」B班は「利尻島のルーツ」、C班は「利尻の遊び」をテーマに聞き書き調査を行った。聞き書き調査を通じて利尻の自然や歴史、文化を学び体系的に表すためにフェノロジーカレンダーを作成した。

※2 「聞くこと・記録すること『聞き書き』という手法」(代田七瀬・吉野奈保子)より引用

〔A班〕

A班は主に「利尻の食」について調査を行う事になった。そのため調査内容は、資料1の様になった。

<午前>

西谷 栄一さん（61歳）元学芸員



・利尻昆布は昔から、京都の「千枚漬け」「湯豆腐」として使用されていた。食べるよりもだしとして利用するのが中心。島民は高級な利尻昆布を一番だしで使用するとすぐ捨ててしまう。

<午後>

味噌 吉夫さん（89歳）元漁師



・一年中、箸とご飯を食べていた。米は物々交換が多かった。本州米と身欠き鯿とを交換していた。足りないものは、商店や仲介人から買っていた。注文すると、次の機会には持ってきてくれた。

〔B班〕

B班は、主に「利尻島のルーツ」について調査することになったので、聞き書きについては主に資料2の様になった。

<午前>

西谷 栄一さん（61歳）元学芸員



<午後>

嶋中 英峰さん（89歳）慈教寺先代住職

鈴木 裕尚さん（73歳）



・人が無くなったら2週間ずっと供え物がなされていたことやかつては、イタコや祈祷師のような人が各部落に2人程いて、西野のばあさんと呼ばれていたといったお話を伺った。

〔C班〕

C班は主に利尻の遊びについて調査を行う事になった。そのため調査内容は資料3のようになった。

<午前>

佐藤 萬さん (92歳)



・祭りはあみおろし、港まつり、野芝居、招魂祭、運動会がある。遊びについては、昔は男女で分かれて遊んでいた。

<午後>

佐藤 ミチエさん (90歳)



・遊びはおはじきや釣り、泳いだり、木の実を獲ったりしていた。冬になると女の子はお手玉やかるた。

男の子はスキー、大人は宝引きで遊んでいた。

夜、利尻富士町役場総合交流促進施設りぷらで行われていた「りぷらde学ぶ利尻学2016」に参加した。

山谷さんと、山本さん（東海大学教授）による利尻島鬼脇地区における戦時中の行政資料や、貴重な兵事書類についての講演会を傾聴させていただいた。



↑写真 りぷらde学ぶ利尻学2016

その後、「眉倶楽部」にて夜ご飯をとった。



↑写真 眉倶楽部にて

夜、班ごとに聞き書きでの情報を整理し、全体ミーティングにて発表した。

**9月17日(土) (7日目)**

[A班]

<午前>

**秋元 進さん (89歳)**



・主食は藪、馬鈴薯を食べていた。米はなかなか食べることはできなかった。子どもの時は乾燥させた小魚をポッケに入れて食べていた。薪炭が終わった後は、肉を食べたりしていた。

**島谷 一昭さん(57歳)**

**利尻富士町産業振興課**



・小学生の時は、藪やカボチャを食べていた。海一つ渡るか渡らないかで大きい差があったと感じる。カップヌードルのCMを見て食べてみたいと思ったし、バナナなんて高級品で運動会の時に食べられれば良い方だった。

<午後>

神成 隆雄さん(69歳) 漁師

・子どものころ、家の畑に蕎麦や大根を植えていた。ウニは昆布を食べる害虫としてつぶしていた。また、ウニを食べ始めた時も生ウニではなく、塩ウニであった。

[B班]

B班は、「利尻島のルーツ」についての研究であったので、利尻の歴史を縄文時代まで遡って、島の住民、移住者とのつながり、ルーツを探るために、文献調査を通じて正確な情報を得るという理由から、この日から文献調査を主な調査としていった。



↑写真 B班 作業の様子

[C班]

<午前>

正田 浩さん(90歳)

ミツエさん(89歳)



・遊ぶ暇がなかった。映画館があったが、子どもも親のお手伝いをしていて忙しかった。7月にある利尻山神社例大祭では露店(花、瀬戸物、わたあめ、たいやきなど)が立ち並ぶ。

<午後>

金森 のぶ子さん(61歳)



・あやこ、おはじき、けんけんぱ、天まりを日が暮れるまで外で遊んでいた。お彼岸では、すすきをとってお団子、お菓子を食べた。

9月18日(日) (8日目)

[A班]

<午前>

吉田 敏光さん(40歳) 利尻富士町  
役場

今村 大さん(31歳) 消防士



・基本、食べるものは海のものが多かった。現代みたいなおしゃれな食べ方を知らなかったの、基本は焼くか煮付けで食べていた。小学校のころまで、肉は貴重なもの。お祭りの焼き鳥が珍しかった。

<午後>

吉田 敏さん(72歳) 漁師  
静子さん



※C班と合同で聞き書きを行った

・戦時中は食べ物に困った。真っ白いごはんを食べられるのは一年に一回。基本は藪を食べていた。野イチゴをおやつとして食べていた。藪はすりばちでつぶして団子にして、砂糖やきなこなどをつけて味に飽きないようにしていた。

[B班]

<午前>

澤 敏弘さん(37歳)

・ルーツは富山で新港へ移住してきたそう。若い世代から見た地域について伺ったが、若い世代からはルーツの聞き出し方が難しいと感じた。

<午後>

文献調査・発表資料作り

利尻島のルーツなどの情報を地図上に色分けして載せた。(資料7)

[C班]

<午前>

吉田 敏光さん(40歳) 利尻富士町  
役場

今村 大さん(31歳) 消防士



・海辺で、ウニやアワビ取り、魚釣りで遊んでいた。また缶けりや昆虫採集もしていた。ゲームもあったが、外で遊ぶ方が楽しかった。

<午後>

吉田 敏さん (72歳) 漁師

静子さん

※A班と合同で聞き書きを行った。

・男はパッチ (めんこ) で遊んでいた。

女はお手玉やおはじきで遊んでいた。他にもかくれんぼや水泳などして遊ぶ。

この日の夜、町職員の皆さんと交流会を行った。最初の顔合わせ時よりも距離が縮まり、大変賑やかなものとなった。また食事だけでなく、利尻方言かるたや宝引きといった島の遊びでさらに交流を深めた。



↑写真 方言かるた



↑写真 宝引きの様子

その後、明日の発表へ向けた資料の準備などを班毎に行った。

## 9月19日(月) (9日目)

最終日に、ゼミ合宿の報告会を行った。

まず、今回のゼミ合宿の一番の目的であった、島のフェノロジーカレンダーについて説明した。

(資料7) フェノロジーカレンダーとは

「『フェノロジーカレンダー』は『季節暦』ともいい、一年間の時間の経過に従って、地域の気候や山や川、潮汐や星座、また動植物など自然の移り変わり、それに応じて変化する農業や漁業を始め生産活動の季節による推移、あるいは祭りや祭事などをカレンダーとして表したものである。…(中略)…『フェノロジーカレンダー』は自然と寄り添い、自然を生かす地域の暮らしぶりを自ずと表現することによって、自然と密接にかかわって形成されてきた持続可能な地域の暮らしぶりを浮かび上がらせるのである。」(真板,2010,pp.123-124)。と真板は説明している。つまり、フェノロジーカレンダーとは、地域の中で自然と人の暮らしがどのような関係を持っていたのか(地域生態システム)をカレンダーの形で表現しているものであると捉えることが出来るだろう。今回、フェノロジーカレンダーに「食」・「仕事」・「魚」・「畑」・「花、山暦」・「遊び」・「お祭り、行事」を落とし込んだ。



↑写真 フェノロジーカレンダーについて発表する青野

次に、A班による「合宿誘致」をテーマにした発表を行った。(資料4)ゼミ合宿での活動を通して、学生が感じた若者目線での合宿誘致提案並びに合宿の拠点として1週間滞在した、旧本泊小学校の施設の課題を発表した。旧本泊小学校の課題として、①インターネット通信の整備②シャワーがない③近くに買い物する場所がないことを挙げた。

### 旧本泊小学校の課題

- インターネット通信がない  
→調査を行うのに不便
- シャワーがない  
→入浴代がかかってしまう
- 近くに買い物できる場所がない  
→自販機もないため、合宿のスケジュールに買い出しの時間を多く取らなければならない



↑発表資料より

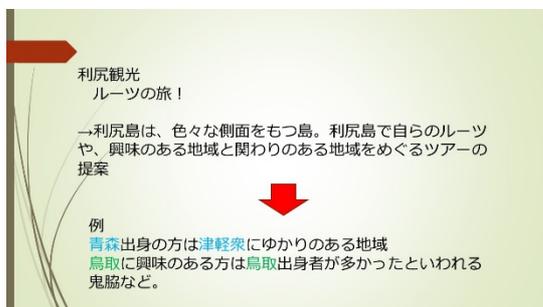
さらに、運営主体として地域おこし協力隊を新たな窓口にし、受付を担当することを提案した。また、合宿情報サイトに情報を提供することで、多くの人に関心を持ってもらう

ことができると考えた。課題としては、地域おこし協力隊の任期が短いことにより、引継ぎが難しいこと。また、情報サイトに載せる費用を、どう負担するかを挙げた。ゼミ合宿の具体的なプログラム提案のテーマとして、「利尻だからこそ可能なプログラム」の提案を目指した。1つは考古学ゼミ、サークルへ向けた合宿プランだ。利尻は旧石器時代から、オホーツク文化期、擦文文化期にかけての集落や土器が発見されており、研究場所として最適だ。2つ目は釣りサークルへ向け合宿プランだ。周囲が海に囲まれている利尻島では、気軽に釣りを体験できる。フェノロジーカレンダーを利用すると、どの季節にどのような魚が釣れるか、旬の魚は何かなどの情報が一目でわかる。3つ目は看護学校の実習を兼ねた合宿プログラムだ。島民の健康診断や健康相談を行ったり、一緒に体を動かすイベントに参加してみたりすることを目的とした内容だ。離島の医療機関の状況を視察することもでき、普段とは異なる体験を通して、新たな発見に気付くことができるかもしれない。この3点が今回発表した合宿プランの提案であった。



↑写真 A班発表の様子 白岡

B班は「つながり」をテーマにした発表を行った。(資料8)利尻島には様々な地域から人々が移住してきた歴史がある。彼らがどのような経緯で、いつ利尻島にたどり着いたのかという「時間的なまとめ方」と、彼らが利尻島のどこで暮らしその名残が残っているのかという「地理的なまとめ方」をそれぞれ行った。津軽衆と因幡衆、越中衆とアイヌ民族、それぞれの出身地別の人々のストーリーを紹介した。そして宗教やお祭りなどを手掛かりに、聞き書き調査や文献調査を行い、そこから分かった島の文化のルーツを出身地別に起こした地図を紹介した。そこで「利尻観光ルーツの旅」と題打ち、いくつかの例を出した。



↑発表資料より

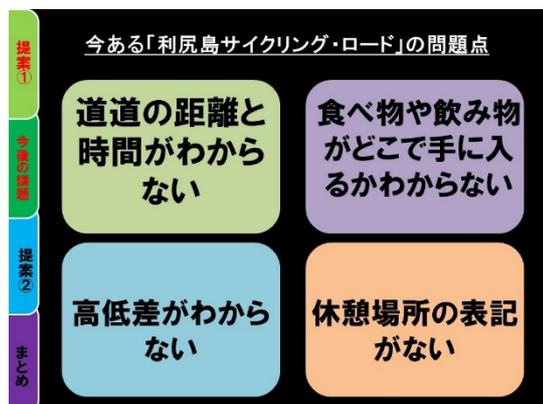
因幡衆は愛知から来た人が多いとされる情報から、当時の因幡衆が人を雇い経営していたと言われる缶詰工場見学を行うことや、青森県付近から来たとされる津軽衆が、船をこぐときに「おーしこい、おーしこい」というかけ声をあげていたという当時の風景を、もう一度地域住民と観光客で再現する、などといった

その地域の付加価値を歴史と住民によってあげる観光を提案した。



↑写真 B班発表の様子 熊野

C班は「地域遺産を生かした新しい観光」をテーマにした発表を行った。(資料6)1つはレンタサイクルの拡充を挙げた。一年に一度行われるイベントの際にレンタル用として町が保有している自転車を活用するため、サイクリングの気候に適した時期に自転車のレンタルを行うこと。また、貸出のアイディア、今現在あるサイクリングマップの改善案と実施への課題について発表した。



↑発表資料より

2つ目は作成したフェノロジーカレンダーを活かしたフォトロゲイニングを提案した。フォトロゲイニングの原点である、ロゲイニングは、野外での長距離ナビゲーションスポーツである。ルールは地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集める。チームごとに作戦を立て、チェックポイントでは見本と同じ写真を撮影する。チェックポイントに設定された数字がそのまま得点となり、より合計点の高いチームが上位となる。それを「わかりやすく、すでに現地にあり目立つもの」をチェックポイントとし、デジタルカメラの撮影で代用しようというのがフォトロゲイニングである。

利尻富士町の観光の現状は、ツアー団体の来訪者が多くみられ、個人の意味で島を巡ることは難しい。この現状を打破するためには決まった場所を回るという型にとらわれた観光から、自分が見たい・行きたいと感ずることが出来るものに対し、能動的に行動する観光スタイルに切り替えていかなければならない。ここで利尻島の今ある多くの観光資源をフォトロゲイニングに取り込み、ゲーム感覚で島を巡ることが出来る。またチェックポイント間の移動の際、島の人との交流や自然に触れることでツアー旅行では味わうことのできない島の魅力に気づくことが出来る。



↑写真 C班発表の様子 東海林

発表後、班毎に今回のゼミ合宿の感想、感謝の意を述べ、報告会は終了した。



↑写真 発表会の様子

発表会終了後、旧本泊小学校の清掃、各自の荷物をまとめ帰宅の準備を整える。帰りの便まで時間があつたので、各々お土産を購入したり、観光地を巡ったりして利尻での最後の時間を過ごした。最後に小学校前で全体の集合写真をとった。



↑写真 ゼミ生集合写真



↑写真 利尻空港

その後、利尻空港へ移動。町民の方々に見送られながら 15:35 利尻空港を出発。

## 第4章

### 振り返りと感想



## 4. 振り返り・感想

### 4-1 ゼミ合宿の振り返り

利尻島でのゼミ合宿を振り返ると、1週間という限られた期間のなかで、島のアクティビティを体験し、地域の方へ聞き書き調査を行い、情報をまとめ、発表と、一日一日を忙しく、そして日々新しい発見をしながら過ごしていた。学生にとっては

大変有意義な時間を過ごすことができ、充実した合宿であったといえます。しかし、合宿内に取り組めなかったこと、出来なかったこともたくさんあった。これらを踏まえ、今後の学習につなげていけるよう努力していきたい。

## 4-2 良かったこと、悪かったこと

### 【良かったこと】

- ・チーム毎に仕事量の差はあったが、各班メンバーに仕事を上手く割り振けられた。
- ・当日の予定変更にも柔軟に対応した。
- ・合宿中、天気にも恵まれた。
- ・地域の人と関わる合宿の楽しさ・面白さが体験できた。
- ・他の地域と同様の調査を行っていたため、内容はもちろん意識的なところから地域性が出ているように感じた。
- ・ゼミ生の新たな一面を垣間見ることができた。
- ・ゼミ合宿を楽しめた

### 【悪かったこと】

- ・想定していた調査が相手側とのすり合わせが足りなかった
- ・発表会の資料が見つらなかった。
- ・住民の方からのフィードバックを得る機会がなかった。
- ・最後の交流会のタイミングが、発表会後の方が楽しめたように思うし、フィードバックを住民の方から得られる機会を作れたと思う。
- ・準備に学生が積極的に参加できなかった。
- ・自走出来ていない。

## 4-3 ゼミ生の感想

### ① 青野 朋晃（4年）

今回のゼミ合宿では、「フェノロジーカレンダーの作成」と「フェノロジーカレンダーを活用した取り組み」を合宿期間内で作成・発表を目標に利尻富士町本泊地区を中心として約1週間活動した。スケジュールの前半では、利尻島を楽しむためのレジャーや施設見学を行った。後半は、住民への聞き書き調査を行い、地域の情報をフェノロジーカレンダーに落とし込む作業を主に行い、最終日にそれを活用した仕組みを各班1つずつ住民の方へ発表した。

交流会や登山といったアクティビティは、利尻島の自然や地形を活かしたプログラムが多く、普段とは異なる環境でこうしたプログラムに参加でき、利尻島の自然を楽しむことが出来た。また、ゼミ生でこうしたアクティビティに参加したことは自身の学生生活の中でとても良い思い出になった。

こういった経験が出来たのも利尻富士町の住民の方が様々な形で合宿に関わって来たからだと思う。アクティビティだけでなく聞き書きの中で本泊地区の住民とコミュニケーションを短い時間でも取ることが出来た事はフェノロジーカレンダーを作るという意味以外でもとても良い経験になった。学生たちも聞き書きの中でのコミュニケーションを楽しみにしていたので、楽しみながら話を

聞くことが出来たので良かったと思う。個人的には、今回の聞き書きを通してそれぞれの地域の人・まちの地域性の違いを肌で感じる事ができた。

今回の利尻島でのゼミ合宿を行って、個人的に振り返りを行い、今後改善したい点が以下の3つあると考えた。

- ・スケジュール・調査日程等の打合せに関して
- ・合宿に参加した団体が自立して動くこと
- ・フィードバックが得られなかった事

まず、具体的な日程調整を始めたのがゼミ合宿開始1週間前であったこともあり、後半の調査日程が変更になることも多々あった。更に、事前に調査準備の時間を設けることが出来無かったので合宿中に行う事になってしまい、その時間を別なことに回すことが出来たらと思ったので、来年度以降は改善していきたい。

次に、今回のゼミ合宿では、地域おこし協力隊だけでなく利尻富士町の役場職員の方にも聞き書き調査、施設見学や駕泊地区への送迎をしていただく場面が多かった。自分たちの移動手段が歩くか自転車もしくは自分たちでレンタカーを借りるかしかなかったため、土地勘のある方に運転していただくことで、移動が速く済むだけでなく、安全面でも良かったと思う。費用を抑えることが出

来たのも学生にとってはありがたかった。しかし、こういった合宿を受け入れる際に毎回こういった対応を取ることは合宿の数が増加していけば、負担が増し、難しくなっていくと思う。なので、出来る限り自分たちでの移動が出来るような環境の整備を進めていく必要があると考え

る。最終日に行った発表内容は、まだまだ詰めなければならない点は多かったと思う。しかし、自分たちの発表に関して住民の方がどう思ったのか。何が面白かったのか、どこに課題があると考えたのか等率直な意見を聞く場面が質疑応答の中しかなかった。そこで、BBQの際に話題にする等、もう少し話しやすい環境を発表後に作った方が、フィードバックを得やすい環境になるのではないかと考えた。

今回の合宿では、様々な場面で地域の人たちが関わって来て下さったことが一番楽しかった要因だったと思うので、そうした交流が出来るような環境・関係の整備を行う事が大切だと思った。毎回全員で対応することは難しくとも、様々な角度から関わられるように整備しておくことが利尻での合宿等をとびっきりの思い出にする一つの課題だと思う。

利尻富士町の皆さんありがとうございました。



## ② 古村真衣（4年）

初めての利尻島、稚内から鴛泊行のフェリーの中で利尻富士を見た時のわくわくは今も忘れられません。

一日目の交流会で役場や町の人とお話しし、すごく町の方々のやさしい人柄が伝わってきました。中学生にバドミントンを教えてほしいと言ってくださいましたが、時間がなくて教えにいけないのは残念です。今度行くときは、町の小学生や中高生とも関わる如果能できたら嬉しいです。

二日目以降、本泊周辺のレクチャーを受け、まち歩きしながら利尻島についての歴史を学んでいきました。サイクリングは、一番楽しみにしていたアクティビティで、最高の思い出になりました。思っていた以上に勾配のきつい所が続き、苦しい場面もありましたが、まちの歴史や文化が垣間見え、走りながら受ける利尻の風は最高でした。実際に体験することで、サイクリングの問題点も見えました。それにしても、サイクリングロードがあることはすごく魅力的でうらやましいです。

郷土資料館には驚くほど多くの資料、そして古い書物がたくさんあり、項目ごとに分けた解説シートを自由に持ち帰ることができ、とても親切な資料館だと思いました。

五日目以降聞き書きが始まり、私たちB班は慈教寺の嶋中さんにお話しを伺いました。嶋中という苗字は、青森県今別町に多い苗字なの

で、すぐにルーツは青森だと分かりました。聞き書きは予想以上に難しく、話がそれていってしまったり、全く別のことを話し始めてしまったりなど、聞きたい内容を聞き出すのが難しかったです。

私たちB班は聞き書きが少なかったもので、ひたすら文献調査にあたりましたが、歴史とのつながりをテーマに掲げるにあたって、方向性が見えなくなってしまい、毎晩まとめと話し合いを繰り返しました。どうフェノロジーカレンダーに歴史を組み込めるか、アウトプットをどうするかすごく悩みました。それ以前に、調べていけばいくほど、その歴史の面白さに飲み込まれていきました。こんなに様々な人・文化が混ざっており、興味深い場所は他にないのでと思いました。利尻島のルーツごとの年表づくりと地図づくりがとても面白かったです。最終発表で具体的な内容まで提示した提案をできなかったのが悔しいので、改めて提案できたらと思いました。また来たいと思える場所が増えてとても嬉しく思います。ありがとうございました。



### ③ 白岡 健志 (3年)

利尻合宿での初めての感動は、フェリーの操舵室から一望した利尻富士でした。その日は天気も良く、夕日と利尻富士とコラボレーションは素晴らしいものでした。そして、外に出て風を浴びながら見た景色は忘れることができないくらいの絶景でした。利尻富士を見ることは1週間の合宿で毎日の日常でした。本泊小学校の窓から見えた利尻富士は、フェリーで見た利尻富士と表情が違って、海と利尻富士ではなく、木々と利尻富士でした。この景色を、天気が良ければ毎朝見ることができる場所に泊まっているということを友達に自慢したくらいきれいな景色でした。毎日入った温泉の露天風呂でも力強い利尻富士を見ることができました。こんな場所にまで利尻富士！！と利尻富士を見ることができ新しいポイントを見つけては感動しました。特に感動した利尻富士が見えるポイントが3つあります。1つ目はポン山からの利尻富士です。合宿中で一番間近で見たのがここです。頂上のところに少し雲がかかっていたのですが、それでも圧倒的な強さのようなものが伝わりました。迫力がすさまじく、この山から見る島はどのように見えるのだろうと登山に興味湧いた瞬間でもありました。2つ目は夕陽丘からの利尻富士です。ここから見たときは成果報告会が終わり、縛られるものが何もなくなった状態でした。利尻富士と

一週間お世話になった島の町が一望でき、やっと終わったという達成感と同時に、もう少しだけいたいという寂しい気持ちにもなりました。成果発表会の準備が終わらなく、全然寝れていない状態であったのですが、疲れが全部飛んでいってしまうほど見事な景色でした。3つ目のポイントは私が利尻合宿全プログラム中で一番感動した場所です。それは吉田さんに船で沖まで連れて行っていただき、そこから見た利尻富士です。沖に向かう途中は波に揺られアトラクション感覚で楽しんでいましたが、沖から湾に戻る時、今まで背にしていた利尻富士が猛々しくありました。後ろに利尻富士があるなんて考えもしなかつたので声を出して感動しました。成果発表会のことでも悩んでいたのですが、その利尻富士を見てから自身が出てきました。利尻富士は合宿中の私のモチベーションを高めてくれる大きな存在でした。

私の班のアクティビティは、鮭釣り、鮭トバ作り、ポン山登山でした。中でも釣り自体今まで経験したことがなく、鮭はまったく釣ることができなかつたです。しかし、途中でがや釣りに変更し、かなり多くの釣果を得ることができ、釣りの面白さに触れることができました。また、休憩中に獲れたてのウニをいただき、それだけで満足することができました。自分が今まで食べてきたウニとはうま味が違い驚きました。

とてもおいしかったです。釣った鮭と頂いた鮭での鮭トバ作り、出来上がるのが待ち遠しいです。鮭のチャンチャン焼きもおいしかったです。一番嬉しかったのはいくらがたくさんあり、ご飯に困らなかつたことです。あんなに贅沢な朝食をゼミ合宿中に食べ続けることができるなんて思ってもいませんでした。とても充実した一週間でした。ありがとうございました。



#### ④ 星山 大稀 (3年)

一日目。稚内～鴛泊間のフェリーでは島谷さんのおかげで普段入ることができないところに入ることができました。私たちの拠点となった本泊小学校は、インターネットと入浴設備がないこと以外は合宿する場所として快適で安心でした。地域の方との懇親会では若い人が多かったことと、想像以上に受け入れてくれている雰囲気があり驚きました。

二日目。レクチャーとまち歩きでは利尻島についての概要を教えていただき、後につながる信仰関係の話も多く聞けました。午後からのお料理教室では魚のさばき方を教えていただき、地域の方と交流できました。

三日目。朝から出発して自転車で利尻島一周を目指しました。坂が多く、想像していたよりもとても疲れしました。途中で「利尻島の駅 海藻の里・利尻」に行き利尻町の地域おこし協力隊の方と出会いました。利尻島を一周することはできませんでしたが、その後に磯船体験をする場所まで送っていただいたことも思い出です。磯船体験では漕ぐのが上手だとほめていただきました。みなさん年齢関係なく仲良く接していたことが印象的でした。

四日目。郷土資料館では、様々な資料を見ることができました。信仰や方言など利尻と他地域のつながりについて考える際の手がかりを見つけたのではと思います。りっぷ

館ではアイヌや縄文の文化について学びました。

五日目。最初の聞き書きは二日目でもお世話になった西谷さんでした。西谷さんには今後の調査についてアドバイスをいただき、連絡先を聞きました。次に聞き書きをしたのは慈教時の方々でした。聞き書きの難しさを感じたことが一番の感想でした。

六日目。基本的に文献調査を行いました。昼には関さんに外に連れて行っていただき、おいしいものを食べることができました。最終的には地図を作り始めました。

七日目。終日最終発表に向け準備をしていました。交流会では初日よりかなり打ち解けて話すことができましたと思います。方言かるたやほう引きをして交流もできました。

八日目。最終発表には想像していたよりも多くの方が集まってくださいました。空港までお見送りをしてくださって、毎年四月に島から出て行く人と同じように「行ってらっしゃい！」と送ってくださったのはとてもうれしかったです。

#### まとめ

今回の合宿は最終発表をどうしたらいいか考えすぎ、先走っては修正するといったような苦しきものだった。精神的にも体力的にも厳しいところがあったが、ゼミ生や先生、地域の人に助けてもらい最後までやりきることができた。様々な地

方から、それぞれの時代に人が入った利尻島はフィールドとして魅力的であった。また個人的には GIS が役場で活用されており、参考にできる場所があった。地域の方々にお世話になったが、最終発表の提案では踏み込みきれず少し後悔が残ってしまった。



#### ⑤ 大久保 美侑 (3年)

C班は「地域遺産をいかした新しい観光」をテーマとし、最終提案を行いました。前半は利尻島一周サイクリングや、磯舟体験、資料館等を巡り、後半は3日間で様々な世代の9人の方々から聞き書きを行い、利尻富士町のむかし遊び・お祭り・冠婚葬祭・年中行事・食事を軸としてお話を伺いました。聞き書きで情報をフェノロジーカレンダーに落とし込み、さらにそれを使った観光の提案を目指しました。

提案として、本泊小学校の自転車を利活用したサイクリングツアーです。利尻山以外にも時間をかけて楽しむ・体験することができる資源の活用が行われておらず、認知度が低いということも考えました。本泊小学校には100台ほどの自転車があり、種類はママチャリに加え、マウンテンバイクやクロスバイクなどサイクリングに適したものが置かれています。私たちは「気軽にサイクリング」をコンセプトとし、5か所に乗り捨て地を設定しました。乗り捨て地を設定することにより、体力に自信がない、島一周は厳しいが、自然に触れたいという人も対象として、気軽にサイクリングをしてもらうことができます。

利尻島の方々からは新鮮な意見かつ、実現できそうというお言葉をいただいた。しかし、問題点として、だれが運営、整備点検を行うのか、どのぐらいの価格設定にし、既存の

レンタサイクルサービス事業者との競争はどうなるのかなど、考えなければいけない面も多くあることを感じました。

一週間利尻で過ごし、私が感じたことは利尻の一番の魅力は「人」であるということです。この言葉は吉田敏光さんが聞き書きの際にもおっしゃっていました。聞き書きをしていく中で、人と人の距離近く、利尻に生きる人々のつながりが目に見えたように感じます。私は、利尻島の方々にまた会いたい、もう一度訪れて話をしたい、と強く感じました。利尻島の歴史や文化に加え、この地域住民の方々が地域遺産といえるのではないかと私は思います。

ゼミ合宿の反省として、学んだことをその時だけのものにしないということです。これはゼミ合宿だけに限らず、私のゼミに対する姿勢として足りないものです。最終提案が終わった後に先生からしまなみ海道のことも話してみたらよかったのではないかとアドバイスをいただきました。私は広島で尾道で観光動向調査に携わる機会をいただいています。今回、利尻島一周のサイクリングマップの改善点を挙げる際、しまなみ海道と瀬戸田のサイクリングマップを活用しましたが、サイクリングを観光活用した事例等を調べるまでたどり着くことが出来ませんでした。もっと詳しく調べ知識があつたなら、比較対象地としてみる事が出来たはずです。

後期のゼミ活動の抱負として、利尻島で学んだことを一過性のものとせず、比較対象地となり得ることはないのかという視点を持つことを挙げます。最後にこのような機会を与えてくださった皆様に感謝します。本当にありがとうございました。



## ⑥ 古舘 葵 (3年)

今回、初めて利尻島に行って思ったことが3つある。1つ目は、自然と生活している雰囲気を感じたことである。一番びっくりしたのは、十五夜に実際にすすきを取ってきている様子が見られたことである。慣習があることは周知の事実ではあるが、実際にやっている人は少ないだろう。2つ目は、島で生活している人たちの力強さである。今回は、様々な年代の方々に聞き書きを行ったが、どの年代の方もパワフルで島であるからこそ、島の中でできることを見つけてきたのではないかと思った。3つ目は、北海道が開拓されて歴史が浅い中、利尻島は歴史が深いのではないかと思ったことである。期間の長さではなく、短いしろ長いにしろ、歴史の密度は濃いように感じた。縄文人、アイヌの人々、利尻島の人々、青森の人、富山の人、様々な場所から来た人たちによって形成されてきたこの島の文化は本当に深いと思った。

また、函館と比べて共通点と相違点を見つけることができた。共通点としては、山と海が一度に見渡せることとそのためか風が強いことである。ほかにも、海鮮系が売りであることが海と密接に関係している土地であることが分かる。また、利尻島は移住者が多いこと、函館は青森県と距離的に近いことが相まって、どちらでも同じような青森の方言を聴くことができた。一方で、函館と人

口規模やインフラの規模等はもちろん異なるが、島に大学がないことが函館と一番違う点であると思った。函館は高専も入れて8つの大学があり、大学生が地域で活動することも少なくはない。しかし、利尻島内には大学はないため、外部から来てもらうしかない。普段から大学生とかわることが減多にないため、地域の人にとっては今回のような活動は新鮮で刺激的であったに違いない。

今回、利尻島に行ってみて「また行ってみたい」「今回、来れなかったゼミ生を連れて来てみたい」と心から思った。もちろん今回のように勉強のために来るのもいいとは思いますが、観光でしっかり利尻島の魅力を感じてみたいと思った。今回は、たくさん島の人に触れることができ、観光で来ていたら絶対に知ることができないようなことをたくさん知り、初めての体験も多く、利尻島は「学ぶ」ことができる場所でもあるのかと感じた。観光だけでなく、教育的観点からもおもしろい場所であると思う。



⑦ 山田 創祐 (2年)

ゼミ合宿は予想以上にハードだった。朝早くに起床し、夜遅くまで作業するのを1週間続けていたので相当疲れたが、内容はインターユニと比べると深かったと思うし、より多くの人と携われたので、充実した1週間でもあった。楽しいプログラムは2日目くらいまでだったが、それ以降の聞き書きでは、実際に島民からではないと聞けない話を聞けたし、インタビューするときの難しさも感じた。話が脱線することが多かったので、相手の話をいいタイミングで切るのも重要なことだと分かった。その後のまとめ作業は本当につらかった。限られた短い時間の中で体力もないなか、あの大量の情報量をまとめるのは大変だった。1週間の集団生活も精神的にみんな疲れることがあったので、その中である程度まとめることができたのはよかった。

合宿の具体的な活動はどれもよかった。利尻富士町の役場の方々を中心に十分すぎるほど支えてくれたので、利尻島にいる間に困ったことはあまりなかった。毎日、送迎やいろいろな所に連れて行っていただき、本当に感謝している。島民の温かさに感謝した1週間で交流もたくさんできたことが、この合宿では最もよかったと思う。

3グループに分けての作業だったが、もう少しうまく情報交換ができればよかったと思う。フェノロジー

カレンダーの作成では、もう少し早く情報をまとめていれば、各グループの作業も早まったと思うので、今後の活動のために考えていきたいと思う。



⑧ 阿部 晃佑 (2年)

9月12日から19日にかけて、利尻島の利尻富士町本泊地区を拠点に7日間のゼミ合宿を行いました。今回のゼミ合宿では、天気にも恵まれすべての行程を予定通りに行え、とても良かったです。

初日から振り返ると、利尻への道のりは大変長いものでした。深夜バス、高速バスを利用して函館から札幌を経由し稚内へ。長時間の移動は疲れました。稚内から利尻島へはフェリーで移動し、その時の船頭見学では普段立ち入ることのできない施設を見ることかでき、またそこから見えた利尻島や礼文島の景色や夕焼けに大変感動しました。

アクティビティではサケ釣りが一番思い出に残っています。サケの引きはこれまでの釣りで味わったことのないほどの強い引きで、何度かばらしてしまいましたが何とか釣り上げることができ嬉しかったです。また釣るだけでなく、鮭とば作りで実際に魚を捌いてみて調理の大変さを学びました。普段はできたものを買って食べるだけの生活でしたが、これからは自分で料理してみようかと思った良い経験でした。

今回のゼミ合宿のメインであった、本泊での聞き書きの調査では多くの方に様々なお話をお聞きしました。私たちの班では主に「仕事」や「食」についてお尋ねしたのですが、世代によってそれぞれの時代のお話を聞くことができ興味深かった

です。時代の移り変わりによりヒトの流れや、モノの動きも大きく変化していきました。今後も時間の経過とともに私たちの生活は変わっていくのかもしれませんが。

最後の発表では、旧本泊小学校を拠点にした合宿プランについて考えました。今回作成したフェノロジーカレンダーから、利尻島には昆布やウニといった海産物をはじめ、山菜や植物といった豊かな自然。そして、利尻島の歴史を築いてきた魅力あふれる人々の暮らしがあることが分かりました。これらを生かした、他では真似できない、利尻島でしか味わうことのできない体験や発見ができる合宿を考えていきたいと思えます。

今回のゼミ合宿では、これまでやったことない体験を多くさせていただき、学びへとつなぐことができました。頭であれこれ考えることも大事ですが、人と会って話してみたり、実際に経験してみたりすることの重要性に改めて気づくことができた合宿でした。

お忙しい中、今回の合宿にお力添えしていただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



#### ⑨ 熊野 心平 (2年)

ゼミ合宿では主にアクティビティとフェノロジーカレンダー、それを利用した観光企画の立案を、利尻島にて7泊8日で行いました。

アクティビティは自転車での島一周や磯船体験など、なかなか経験できないことが多く終始感動していました。運動量的にはなかなかきついものがありましたが、体調を大きく崩すこともなかったのも、ちょうどよかったのではないかなと思います。そういったアクティビティの中で最も楽しみにしていたのは景色でした。とても良いとは聞いていましたが、ここまで良いとは思っておらず、山と空の境目がはっきり見えることや、海の綺麗さ、迫力すら感じさせる岩場など、何か綺麗さを通り越してゾクゾクさせるような景色でした。

フェノロジーカレンダー制作は相当苦戦しました。最初のテーマが「歴史・つながり」ということで、季節とそもそもどう絡めるか想像しづらかったからです。聞き書き調査や文献調査をしても、どこに向かっているかわからず、引出しづらかったこともありました。結果としてあまりゼミの皆さんに協力できない情報になっていたのではないかなと申し訳なく思っています。歴史を年表として見るのではなく、よりミクロな時間の流れとしてとらえ、人の移動や文化の変化、発展の中心の移動、人間関係などに注目してより詳

しく調べてみたいとは思いますが、そういったデータを得るにはどうしたらいいのかあまり見当が付きません。ただ、迷ったときはとりあえずやれることを全部こなす、ということの大切さを改めて実感させられたのはいい時間になったと考えています

観光企画の立案については面白いものが出来たと考えています。たくさん調べた歴史とつながりを活かし、ルーツを辿る企画を立案しましたが、昔の情報を提供するだけでなく、地域住民と過去の再現をすることがポイントです。島だからこそ、観光客と住民、市全てが自分事で動くことが、このようなイベントを成功させる方法だと思います。

全体を通して感じたことは、ゼミ生徒の仲が良くなったことです。大学には色々な生徒がいますが、池ノ上ゼミの先輩や同期は活動に真剣みをしっかり持てる人が多く、私の安直な考えや意見にもしっかりとぶつかってもらえ、勉強している感覚をひしひしと感じました。とても嬉しかったです。こういった活動がとても好きだなと気づきました。そして何より、自分の知らない地域を自分の足で歩くことの重要性をとても感じました。単純に知識として色々な情報を入れるだけではなく、実際に地域を歩き、話し、調べ、何かを作ることで最初に見えていたものが大きく変わっていくことはたくさんあると実感できたので、うまく時間を

見つけて他の地域にも行ってみたいです。

最終日に心底思いましたが、とても良い合宿だったと思います。協力して下さった地域の方や先生、先輩や同期のおかげでよく笑う7泊8日でした。また、よく悩む7泊8日でもあったので、学習面としても満足でした。これらの経験を今後の研究や活動に活かし、目標に向かって頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。



⑩ 菊池 和佳奈 (2年)

振り返ってみて思うことは「利尻島、最高！！」ということです。思い出の一つはもちろん「食」です。食べさせていただいたものは、うに・いくら・ほたて・さけ・ひらめ・ぶり・めばる。凄いラインナップを短い間でたくさんいただきました。どれも本当においしかったです。利尻の食のおかげで、合宿を頑張りきれました。

つぎに「利尻山」。「雄大」という意味が分かったような気がしました。迫力があり、見る角度によっても表情も変わり、どの場所においても姿があるこの利尻山に見守られ島の人は生きてきたんだと思いました。調査する中で「海の信仰より、山の信仰の方が多い・強い」ということが判明しており、収入を得ている漁業・海の信仰の方は強いのではないかと疑問に感じていました。その意味が納得しました。

利尻島の魅力は、自然環境だけでなく実は「人」が一番なんじゃないかと感じました。交流会ではもちろんですが、聞き書き調査でも快くお話しいただき、たくさんを知ることができました。最後帰るときに、飛行機に乗るときに見た皆さんが手を振ってくれたあの景色は絶対に忘れないと思います。正直涙目でした。

今回の学習を通して、利尻島は本当に様々な要素が混在する場所ということが分かりました。町史などを

使って利尻島の歴史を調べてみると、地図の完成度については納得できるものが出来ました。ですがきっと、もっとたくさんの要素・出来事を追加できるように思えました。それほどたくさんの魅力と可能性が詰まった素敵な場所だと気づくことができました。正直、提案についてはまだ甘く詰め切れていない・しっかりとしたものではない為、そこが悔やまれました。帰ったら、もう少し考えてみます。

帰りにお土産を買う際に思ったのですが、お土産の種類が少ないような気がしました。またお土産を買えるお店も数は把握していませんが、もう少しあってもいいと思いました。「海…エメラルド」の押し葉などのお土産がお店にあったら、買う人はたくさんいると思います。私も買いたいです。

利尻島に住んでいる方はもちろん高齢の方が多いとは思いますが、熱意のある50～30代の方が多く、また私たちと同じ世代のひとたちもいて、町を発展させるためにいい条件が揃っていると感じました。自然環境も人間性も素敵なこの利尻島はより良い発展ができると感じました。

今回はゼミ合宿で勉強がメインでしたが、今度ひとりで観光を目的としてぜひ来たいと思わせてくれる素敵な場所でした。また、共同生活をする中で・苦楽を共にすることで先輩方や同期とも仲良くなれたよう

に思えます。この夏の素敵な思い出になりました。

ありがとうございました。



#### ⑪ 東海林 弘人 (2年)

今回のゼミ合宿について、振り返ると、まずフェリーの操舵室を見学したのは初めての経験だったうえ、学生に一部の機器の操作をさせてもらえたことや普段一般客が入ることができない場所に立ち入らせてもらえたのは貴重な経験と思った。島でのアクティビティでは、2日目から振り返ると、本泊小学校付近を見て歩いた際に、砂利道の周りに土器が普通に落ちていたことに驚いた。土器の発掘のイメージはもっと深く掘らなければ出てこないと思っていたため地表に普通に落ちていたことが意外であった。実際に探してみたが土器なのかただの石なのか素人では判断できなかったが、このように割と手軽に土器の採掘ができるのは、イベントや体験学習として使える素材にも感じた。その後のお料理体験も普段、魚を調理する機会がないから苦勞した。さばき方を教えてもらったが、一人ではもうできない気がする(笑) 合宿3日目は、島の8割ほどを自転車で回った。天気が良いければ気分も違ったかもしれないが、雨が降ったり止んだりの繰り返しでとても寒く、正直もう一度するといわれたら、素直に喜べない…。だが、実際に自転車で島を回ること、島の自然、天候の変わりやすさ、地形などがわかったのも、その後の聞き書きで話をされてもイメージしやすかったのも、前半にサイクリングをしといてよかったと思った。また磯

船体験も思いのほか漕ぐのが難しく四苦八苦したが、浅瀬にもたくさんの生き物がいて水も透明で綺麗だった。漁師はあの船に乗って一人で漁をするのはかなり大変に感じた。合宿4日目の資料館、博物館見学は正直あまり記憶に残ってないが、本物の土器を触った経験はなかったので、あんなに軽いものなのかと驚いた。合宿5日目以降の聞き書きは若干記憶があいまいな点も多いが、共通して感じたのはお話を聞いたお年寄りの方がとても元気だったこと、そして記憶がはっきりしており、会話のキャッチボールが割とうまく言ったことが驚いた。お年寄りの話の共通点は、島の活気が薄れ、どんどん買い物が不便になっていることだった。比較的若い世代の人は車もあるし、インターネットで買い物もできるから送料や価格が少し高いぐらいが不満のようだが、大きく便だという人はいなかったが、車のない高齢者には日用品や食品の買い物は大きく不便らしい。

この合宿で、私は初めて利尻島に行ったが、自分の予想よりも街であったことと島が大きかった印象が思い返すと強い。そして、島のどこにいてかこれほど天候が変わるとは思わなかった。また、C班の最終プレゼンをさせてもらったが、発表直前までパワーポイントが完成できず、ほとんど初見で発表したのだが、どうにかそれなりの発表になり、名前も覚えてもらえ、帰りの飛行機に乗る前に「東海林また来いよー！」って誰かに言われたことはいうれしかった。ひとつ心残りなのは『タコシマさん(?)』という私と似た人が島にいるらしくその人に会うことができなかったことである。





**添付資料**



**資料 1** A 班の聞き書き調査での質問項目

北海道教育大学函館校 A 班（青野、白岡、山田、阿部）

【質問内容】

属性：

名前：

性別：

年齢：

職業：

出身地：

ルーツ（いつから利尻へ）：

家族構成：

食生活・料理・調理方法（郷土料理やアイヌのころの食生活など）

『漁師の方』

- 何漁（いつから）
- 獲れる種類・旬・時期
- 漁の仕方・漁場
- 使用している道具（素材など詳細も）
- 流通先は（商品先なども含めて）
- 移住後の仕事のスタイル（変化はあったか、内地から技術を持ってきたのか）

『仕事について』

- ・いつからお仕事されているか
- ・仕事の作業工程
- ・ライフサイクル（人生〔選択肢〕・年間・1日）
- ・女性の仕事について（女性の方に）
- ・冬の過ごし方（○漁できないときの過ごし方）
- ・仕事への思い、やりがい、必要なこと、苦勞
- ・今後の課題・将来の展望
- ・後継者問題

『移住について』

- ・移住者（地域おこし協力隊、利尻出身ではない人など）とのつながりについて
- ・観光客への期待

## 資料2 B班の聞き書き調査での質問項目

### 質問事項

#### 1.自己紹介

#### 2.インタビューの目的

住民の皆様の生活や言語、宗教等の観点からそのつながりを調査し、現在の本泊を構成する文化や習慣のルーツを調査したいと考えております。

インタビューでお答えいただいた内容は目的以外に使用しません。

ご協力よろしくお願い致します。

#### 3.質問内容

● 名前・性別・年齢・職業・出身地・先祖のルーツ・家族構成

● 思い出深い場所や好きな場所はありますか？

● 印象に残っている出来事や変化、習慣はありますか？

● 言語について

→ 周りと自分の言葉に違いを感じたことはありますか？

地方から利尻島に来ていた場合、当初戸惑うことがあった言葉はありますか？

他の地域から来る観光客や移住者の方で、自分と似ていると思う方言に出会ったこ

とはありますか？

両親は方言をお持ちですか？両親譲りの方言ですか？

● 宗教や言い伝えについて

→ このあたりで言い伝えられている話や宗教のようなものはありますか？

子供の頃耳にした神様や都市伝説のような話は何かご存知ですか？

他の地域から来る観光客や移住者の方で、同じような宗教や言い伝えを聞いたこと

はありますか？

宗教と漁との関係について何かご存知ですか？

利尻島にはたくさんの鳥居や祀られている建物があるように感じましたが、それら

について何かご存知ですか？

質問は場合により変わることがあります。ご協力ありがとうございました。

### 資料3 C班の聞き書き調査での質問項目

#### 質問事項

1. 自己紹介
2. インタビューの目的  
私たちは本泊地区の遊びをテーマに調査をしています。この調査を行ない、観光プログラムや小学校を拠点した合宿誘致の提案をします。インタビューでお答えいただいた内容は目的以外に使用いたしません。ご協力お願いいたします。
3. 属性  
名前・性別・年齢・職業・出身地・先祖のルーツ・家族構成
4. 本泊地区の行事についてお聞きします。
  - (1) この地区で1番規模が大きいお祭りは何ですか。
  - (2) お祭りに来る人々は島民の方が多いですか。
  - (3) 11月から1月にかけてお祭りなどが少ないようですが、何か理由はありますか。
  - (4) 今はなくなってしまったお祭りなどはありますか。
  - (5) 冠婚葬祭はどのように行っていますか。
5. 小さいころにやっていた遊びについてお聞きします。
  - (1) 子供のころ特に思い出に残っている遊びはありますか。
  - (2) 「あやこ」という遊びがあると伺いましたが、具体的にどのようなものでしょうか。(けっけのけ P81 参照)
  - (3) 歌を使った遊びが多いと感じましたが、何か思い出に残っているものはありますか。
  - (4) 男女で遊びの内容が異なると思いますが、一緒になって遊ぶことは多かったですか。
6. その他、私たちが利尻島に来て疑問に思ったことをお聞きします。差し支えなければお答え願います。
  - (1) 生活するうえで、足りないもの・あったらいいなと思うものはありますか。
  - (2) 修学旅行はどこに行きますか。
  - (3) 学生と一緒に何かやりたいことはありますか。

質問は場合により変わることがあります。ご協力ありがとうございました。

資料 4 A 班の発表会パワーポイント資料

合宿誘致事業

A班  
青野 朋晃 白岡 健志  
阿部 晃佑 山田 創裕

A班の主な合宿プログラム

サケ釣り～調理

ポン山登山

島民の皆様への聞き書き

成果発表会



利尻が学生に求めるもの

- ・若者からの様々な提案
- ・人の交流を通して利尻のことを広く伝える
- ・何回も行きたい場所と感じてもらふ
- ・島民にも地域遺産の価値を知ってもらふ



島民のメリット

- ・利尻には大学がない  
→大学生との交流は貴重  
→島民の刺激になる
- ・島にはない情報を幅広い世代が手に入る。

↓  
それらに適応した**共通のテーマ**

利尻に若者目線の**提案**をする

島民が利尻のことについて  
歴史、文化などを**伝える**

**島の遺産**を島民・学生みんなで  
再確認、知っていく

旧本泊小学校の課題

- ・インターネット通信がない  
→調査を行うのに不便
- ・シャワーがない  
→入浴代がかかってしまう
- ・近くに買い物できる場所がない  
→自販機もないため、合宿のスケジュールに買い出しの時間を多く取らなければならない



### 現在の運営の主体

#### 利尻富士町

しかし、、、

- ・他にも仕事が多くあるので、時間を多く取れない
- ・他の仕事に影響が出る可能性がある



### 新たな運営の主体

#### 地域おこし協力隊

→地域おこしの活動として、合宿の運営を行うことで地域おこしにつながるのではないかと！

役場職員の負担が減り、他の仕事もできる



特集 Vol.16  
北海道利尻町  
意味を見出し  
意見をもって  
進める活動

### 合宿における窓口

利尻富士町のHPに受付窓口を設置  
→地域おこし隊が受付を担当とする

合宿所情報サイトに情報を掲示する  
→人目に多くつくため、関心を持つ人たちも増える



### これらにおける課題

- ・地域おこし協力隊  
→任期が1年~3年以下なので引き継ぎ、継続が難しい可能性も
- ・合宿情報サイト  
→情報に載せる際に、費用が掛かる可能性がある



### 個人的に絶対入れたいプログラム！

- ・サケ釣り~調理  
→サケを釣り、捌く貴重な体験ができる。  
釣れないのも虞にする1つの理由かも、、、
- ・ガイド付きポン山登山  
→様々な植物・野鳥などについて知りながら楽しく登れる。  
ルートによって、時間調整もできる。



### 提案①: 考古学ゼミ・サークル 利尻の縄文文化を知る(5泊6日)

1日目 移動日 フェリーでは操縦室の見学もできるかも！	2日目 サケ釣り・調理 ↓ ポン山登山
-----------------------------------	------------------------------

### 提案①: 考古学ゼミ・サークル 利尻の縄文文化を知る(5泊6日)

3日目 遺跡を周る サイクリング島1周 30か所以上ある古代遺跡を島1周しながら周ってみる	4日目 カルチャーセンター・りっぷ館 & 聞き書き 専門家による利尻の縄文文化の学習
--	--

### 提案①: 考古学ゼミ・サークル 利尻の縄文文化を知る(5泊6日)

5日目 調査&まとめ 最終日の発表に向け、調査、まとめを進める。	6日目 成果発表会 合宿で学んだことや発見を島民に発表し、学んだことを共有。 ↓ 合宿終了
--	---



ニシンの漁獲時期		1月	2月	3月	4月	5月	6月	仕事\月								
漁労工程	ニシン		<ul style="list-style-type: none"> <li>漁労準備</li> <li>船だし</li> <li>雪切り</li> <li>網打ち</li> <li>土留詰め</li> <li>網支度</li> <li>追加作業</li> <li>京ほし</li> <li>船支度</li> <li>型入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初ニシン(3月30日から4月9日)後網</li> <li>し解なおし</li> <li>し深取り・沖取り</li> <li>し沖上げ(子たき(白子・鰯の子))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初定(28日から29日)</li> <li>釜炊き</li> <li>し玉取り</li> <li>し玉付け</li> <li>し形ひらげ</li> <li>し船洗い</li> <li>し箱倉</li> <li>し身入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>網キョウリ</li> <li>しモツ洗い</li> <li>し型取り</li> <li>し解り(22日から)</li> </ul>										
	製造加工		<ul style="list-style-type: none"> <li>取り込みニシンつらし</li> <li>塩ニシンかけ</li> <li>すしニシンかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニシンつらし</li> <li>し戻つなぎ</li> <li>し納屋かけ</li> <li>ニシン乾燥</li> <li>し納屋締め</li> <li>し早切片付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鰯の子押し</li> <li>海水に漬ける(3日)</li> <li>しま電に干す(1週間)</li> <li>し戻に広げる→1箇所</li> <li>し身欠き締め</li> <li>し身欠き締め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>し身欠き締め</li> <li>し身欠き締め</li> </ul>										
身欠きニシン製造他		ニシン洗い														
仕事\月																
ホッケ																
天然コブ																
善福コブ																

この合宿によって、、、

- 離島の医療機関を見ることで課題を発見できる。
- 健康を通して、島民の昔の仕事に関心をもつことができる。

資料 5 B 班の発表会パワーポイント資料



B班発表  
利尻の歴史とつながり

班員

- 三年 星山大稀
- 四年 古村真衣
- 二年 菊池和佳奈
- 二年 熊野心平

私たちはフェノロジーカレンダーの中で

人の入り  
↓  
他地域とのつながりに注目しました

聞き書きや西谷さん、島谷さんのお話  
+ 文献調査

から

利尻と他地域に関する年表を作りました。  
(すべてではないですが)  
そして自分たちなりに時代区分をしました。

年表

外から来た人達と  
それぞれのストーリー  
を作りました  
(因幡、越中、津軽、アイヌ)

因幡衆

- 因幡衆はお金持ち。
- 本来カニはタラ漁の邪魔者とされていたが、アメリカやイギリスへの輸出品として1904年にカニ缶詰製造に日本の資本家が目をつけ、カニ缶工場やニシン漁の労働力を求めた。

因幡衆

- 鬼脇の清川や、仙法師の長浜に集落を作り、カニ缶工場を1895年に建てる。
- その集落から麒麟獅子が仙法師に伝わる。
- 1920年カニ缶工場が大きな功績を残し、湧き水を利用した水力発電所を作る。
- 1928年カニ漁の不調が続き、工場が消える。

越中衆

- 徳川藩政時代に北前船の寄港地となり、海運の町として大きく前進した。
- 富山は海岸線の長さが漁民一人に換算すると短く、漁民は苦しい生活を強いられていた。
- 特権的な制度により過酷な漁民支配が行われた。1716年は大不漁の年。

越中衆

- 江戸後期・明治前半期に、北前船は最盛を迎えたが、その後衰退し、北洋のタラ・サケ・マスなどを中心とした北洋（オホーツク海やカムチャッカ沿岸）漁業にのりだす企業家も多く出た。出稼ぎは1800年月中旬から盛んになった。
- 北海道におけるニシン漁やイカ漁も、新湊の漁業者たちが函館や北海道の日本海沿岸を中心に展開し、盛んに活躍した。
- 利尻の新湊は当時の富山県に以前あった新湊市と関係があると考えられ、宍形の中心部にはいろいろな地域から人が入ってきていたが、特にビヤコ口は越中町と通称されるほどであった。

**津軽衆**

1877年(明治10年代)

- 二石地区

飯田義正(1923年)の祖父が旧鬼脇村の村長から表彰状を受けており、その中に1884年に移住されてきたということが明示されており、移住は縁の建網の親方が始めたと思われる。

祖父は船にゴザの帆をあげ「オーシコイ」の掛け声で船をこぎ津軽海峡を渡り、陸地づたいに船を進め、時下になると陸に船をまきあげて風待ちをしたという。だから船のまま上げ道具はもとよりカマドの一切切を積み込んできたと聞いている。祖父はかくし屋のうちという建網の船頭か何かで来て定住した。

- 旭浜地区

出身地は青森県と秋田県がほぼ同じくらい。

**津軽衆**

- 石崎地区

最初に来た人ははっきりしないが建網の親方が最初で、親方について来て鯨漁に従来していた人たちが次第に住み着いていった。建網に働きに来ていた若い衆は鯨漁が終わると帰るといった生活を繰り返しているうちに、地区に住みつき建網にやとわれて暮らすようになった。

- 鯨泊地区

建網の親方が来たのも古く、その若い衆が次第に住みつくようになったという人が多い。

**津軽衆**

1887年(明治20年代初期)

鯨泊の神社は、青森県から建網の親方藤田という人が主体となって運んできて建てた。二度改築している。一度目は越後屋という大工さんが手掛け、二度目は最近入井氏が自治会長の時に改築した。絵馬はないが、マサ屋根のふき方の技術を伝える山崎松太郎という人の作品が飾られている。

祭典は北見神社とは関係なくやったが、みこしや獅子舞奉納、相撲などもなく、ただ昔は毎年お祭りをめがけて回って歩いている旅芸人が来るので、浪曲や芝居などをやっていた。

大正～昭和初期

- 雄冠志内

津軽衆でかたまっていた。石崎は青森の人が多い。番屋を持っている人以外は、刺し網をやっていた。人を頼むときは青森県(浅虫や野辺地など)から働きに来てもらった。

**アイヌ**

- アイヌ文化期

1604年松前藩がアイヌ民族との交易権を得る。

1633年鎖国体制が強化され、松前藩は蝦夷地と和人地を分離して交通を制限

蝦夷地の中にアイヌ民族と交易する商場を設ける。

- 1870年津軽に和人と利尻に住むアイヌとの間で海産物の交易をしていた様子が記録されている。よってこのころには松前藩によるリイシリ場所が聞かれていた。利尻アイヌ300人

**アイヌ**

- シャクシャインの戦いの処理相談が必要になり、宗谷利尻天塩余市のアイヌ長人が集まる。
- 1704年商場知行制アイヌの人々が本泊に集まり交易。相手は松前から来た商業者。
- 1807年ロシア人による利尻島襲撃。アイヌの家屋が4件に。
- 1875年アイヌは8件37人に。職は雑業。

視覚的にわかりやすくするため  
地図に色分けして情報を落とし込みました

他地域からどこに人が来たのか  
他地域との交流に関するできごと

マップ(空間) + ストーリー(時間)

これまでのことから利尻と他地域とのつながりが証明できました

これらを踏まえた、  
交流を活かした新しい観光  
の仕組みを提案します。

聞き書き調査から考えた、  
観光の形の目標

観光客と観光地の住民の関係の希薄さはもったいないのではないかと。

→たくさんのルーツや要素がある利尻島なので、  
住民と観光客のたくさんのつながりがある  
→お話をしてくださる地域の方が多い印象

観光客と地域住民が交流できる観光  
を作れないだろうか？

→口コミやリピート効果も見込める



利尻観光  
ルーツの旅！

→利尻島は、色々な側面をもつ島。利尻島で自らのルーツや、興味のある地域と関わりのある地域をめぐるツアーの提案



例  
青森出身の方は津軽衆にゆかりのある地域  
鳥取に興味のある方は鳥取出身者が多かったといわれる鬼脇など。

津軽の場合

野塚、雄志志、旭浜、鯉泊、二石等、ゆかりのある土地が多い。

当時と同じことを出来たら面白いかも！

例えば...

- ・二石地区の「オーシコイ」を再現
- ・青森から運んできたとされる、鯉泊の神社を見る

因幡衆の場合

例えば...

- ・鬼脇の清川、仙法志の長浜
- ・カニ缶工場の見学
- ・長浜に伝わる麒麟獅子の学習

音のつながりを現代に

互いの地を行きかい地域間交流！  
→ゆかりの地に利尻の人が行くなど、  
地域とのつながりを生み、交流を深めよう



ありがとう  
ございました！

資料 6 C 班の発表会パワーポイント資料

提案①

今後の課題

提案②

まとめ

**ゼミ合宿@利尻島 C班**  
**地域遺産を生かした**  
**新しい観光**

大久保美侑 東海林弘人 古館葵

提案①

今後の課題

提案②

まとめ

**①気軽に島の**  
**地域遺産を巡る**

↓

本泊小学校にある自転車を利活用する

提案①

今後の課題

提案②

まとめ

本泊小学校にある自転車を利活用する

↓

**レンタサイクルとして**  
**貸し出すことに**  
**自転車を活用**

提案①

今後の課題

提案②

まとめ

= 貸出の流れ =

- ① 事前に予約し、予約場所と返却場所を決める。
- ② 利用者は貸出場所へ向かう
- ③ 貸し出す際に身分証など本人確認をする (不要ならやらなくてもいい)
- ④ 貸出時にサドルの調整などをして利用者に合わせる
- ⑤ 利用開始
- ⑥ 返却の際は、無断延長や破損が無いかを確認し、問題が無ければ終了。

	乗り捨てサービス	日常点検	レスキュー
提案①	<p>事前に貸出・返却場所を予約することで、乗り捨てを可能し、<b>体力に自信が無い人でも気軽にサイクリング</b>ができ、<b>自然を体感出来る。</b></p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利尻空港 (貸出・返却)</li> <li>・町役場 (貸出・返却)</li> <li>・貸泊港フェリーターミナル (貸出・返却)</li> <li>・姫沼口 (返却)</li> <li>・沼浦 (返却)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキ</li> <li>・タイヤの空気圧</li> <li>・車体 (ハンドル、サドル、チェーン、ワイヤー)</li> <li>・ベルやヘッドライト、リフレクター</li> </ul>	<p>走行が不能な場合とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンク</li> <li>・チェーン落ち</li> <li>・ブレーキの不具合</li> <li>・ギアの不具合</li> <li>・事故による破損</li> </ul>
今後の課題			
提案②			
まとめ			

万が一故障 事故による故障	貸出者の業務	自転車
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 貸出した店舗 (?) に連絡する。</li> <li>② 故障内容を伝え、自力で直せないかを運転手に確認する</li> <li>③ 自力で修理が不可能な場合、レスキューとしてトラックなど車によって代わりの自転車を届ける</li> <li>④ 代わりの自転車に乗り、サイクリングの続きをする。</li> </ol> <p>※故障の原因が、事故による過失や故意の場合は運転手が修理費用を負担 (?)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の日常点検や整備</li> <li>・貸出、返却の予約業務</li> <li>・乗り捨ての自転車の回収</li> <li>・自転車のロードサービス対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本泊小学校に保管されている、クロスバイク、マウンテンバイク、ママチャリの活用。</li> <li>→現状の問題点</li> <li>・自転車の整備は行われていない?</li> <li>・クロスバイクとマウンテンバイクに鍵やライトが無い車両がある。</li> <li>→要望</li> <li>・貸出時にギアなどの操作方法、また簡単なトラブルの際の解決法のレクチャー</li> <li>・ボトルゲージがあったらいい</li> </ul>
提案①		
今後の課題		
提案②		
まとめ		

**今ある「利尻島サイクリング・ロード」の問題点**

提案①	価格設定	誰が運営を行うのか。
提案②	既存の事業者との競合	誰が整備点検を行うのか。
まとめ		

提案①	道道の距離と時間がわからない	食べ物や飲み物がどこで手に入るかわからない
提案②	高低差がわからない	休憩場所の表記がない
まとめ		

**場所の説明文の表記 ⇒イメージしやすい**

**坂道表記**

**自動販売機、コンビニエンスストアの表記**

**休憩場所の表記 (次のスライドより)**

**マップの追加情報**

場所	トイレ	買い物・食事	休憩所
大磯駐車場	○		
利尻空港	○		
旧本泊小学校	○		
富士野園地	○		
セイコーマート	○	○	
留泊フェリーターミナル	○	○	○
姫沼	○		
野塚駐車場	○		
オタマリ沼	○	○	○

・サイクリングロードは走りやすいが、時々林道との交差点がある。視界はやや狭い。道は狭め。

**②フェノロジーカレンダーを生かしたフォトゲイニング**

**地域の良さを再発見する**

～フォトゲイニング～  
地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、写真を撮影し、得点を集めるスポーツである。

**学生が感じた利尻富士町の魅力**

**現状の利尻富士町の観光**  
コツアールによる団体客多いため、個人の意思で島を巡るのではなく、連れていかれている感が強い...

**どこかを周るといってとられない「新しい」利尻の観光**

フォトゲイニングを生かしゲーム感覚でわくわくと島を巡ることができ、めぐっている間に島の人の交流や自然に触れることで利尻富士町の魅力を島外のヒトにも伝わる！



1704年 商場知行制施行。  
 1765年 運上屋が建てられる。  
 1807年 ロシア人襲撃の際に番屋は残る。  
 1808年 会津藩士の墓が建てられる。  
 1962年 利尻空港開港

1929年 大火  
 1948年 ソ連軍用機不時着

1808年 会津藩士の墓が建てられる。

1934年 稚内礼文航路就航  
 2014年 海の駅供用開始

1848年 ラナルド・マクドナルド上陸

1808年 会津藩士の墓が建てられる。

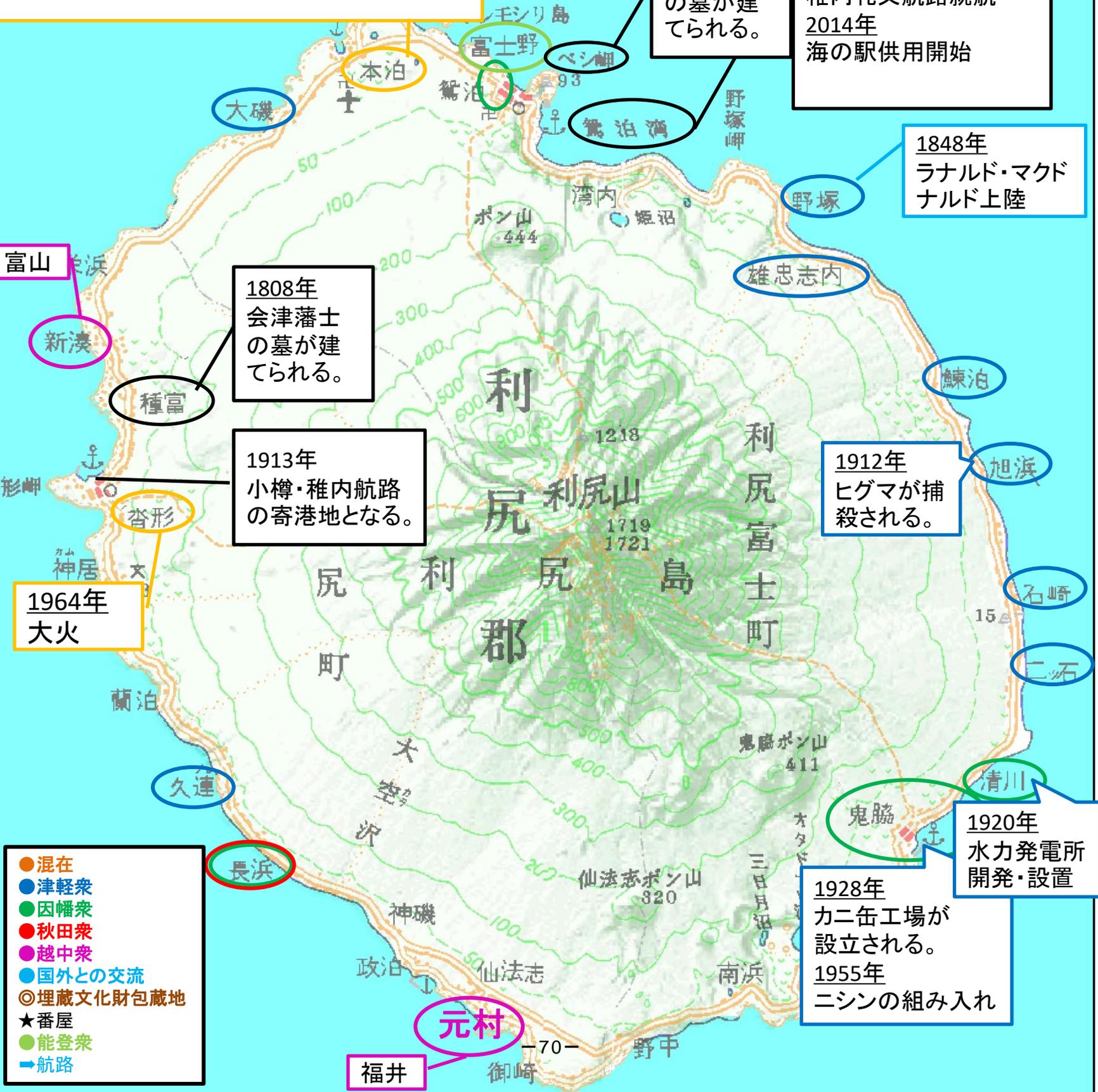
1913年 小樽・稚内航路の寄港地となる。

1912年 ヒグマが捕殺される。

1964年 大火

1920年 水力発電所開発・設置  
 1928年 カニ缶工場が設立される。  
 1955年 ニシンの組み入れ

- 混在
- 津軽衆
- 因幡衆
- 秋田衆
- 越中衆
- 国外との交流
- ◎ 埋蔵文化財包蔵地
- ★ 番屋
- 能登衆
- 航路





本書の著作権の取り扱いについて

- ★ 本書の著作権は、各部位の原作者に帰属します。なお、出典を明記された上での学術・非営利目的の引用はこれを禁じるものではありません。記載内容に関するお問い合わせは北海道教育大学函館校池ノ上研究室または利尻富士町役場（連絡先は下記を参照）までお願い申し上げます。

平成 28 年度 離島交流事業（合宿誘致モニター事業）  
北海道教育大学函館校池ノ上研究室 利尻島ゼミ合宿 2016 報告書

本報告書は離島交流事業（合宿誘致モニター事業）の成果物として作成されたものである。

---

2017 年 1 月 31 日発行

編 者 : 池ノ上 真一、青野 朋晃、阿部 晃佑  
表 紙 : 池ノ上 真一  
発 行 : 北海道教育大学函館校 池ノ上研究室

〒040-8567 函館市八幡町 1-2 北海道教育大学函館校 3 号館 210

TEL : 0138-44-4303 (代表)

e-mail: [ikenoue.shinichi@h.hokkyodai.ac.jp](mailto:ikenoue.shinichi@h.hokkyodai.ac.jp)

利尻富士町役場

〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鷺泊字富士野 6

電話 : 0163-82-1111 (代)、FAX : 0163-82-1373 (1F)

印刷・製本 : 利尻富士町役場

---

